35011755 ver.02 2-01 C10-017

BUFFALO Network Admin Tools for NAS (BN-ADT/NAS)

ユーザーズマニュアル

このたびは、BN-ADT/NASをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本書は、BN-ADT/NASの使い方について説明しています。使用前に必ず本書をお読みください。

本書の使い方

本書を正しくお使いいただくための表記上の約束ごとを説明します。

■文中マーク／用語表記

⚠注意 マーク製品の取り扱いにあたって注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与えるおそれがあります。

メモ マーク製品の取り扱いに関する補足事項、知っておくべき事項です。

▶参照 マーク関連のある項目のページを記しています。

・文中 [] で囲んだ名称は、操作の際に選択するメニュー、ボタン、テキストボックス、チェックボックスなどの名称を表しています。

・文中「」で囲んだ名称は、ソフトウェアやダイアログボックスの名称を表しています。

■ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■ 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■ 本製品は一般的なオフィスや家庭の OA 機器としてお使いください。万一、一般 OA 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、弊社はいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・ 医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。

・ 一般 OA 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは、ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■ 本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、弊社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■ 本製品（付属品等を含む）を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。

■ 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■ 弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■ 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

目次

4　管理機能......28

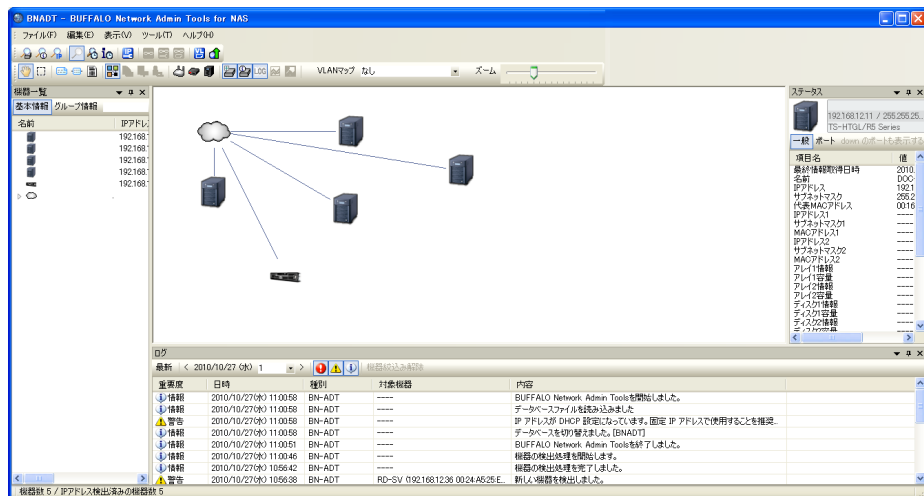
5　機能詳細......57

1 製品概要

おもな特長

BUFFALO Network Admin Tools for NAS(BN-ADT/NAS) のおもな特長は次のとおりです。

≪ネットワークマップ機能≫

本製品で検出できた NAS を、アイコンとしてイメージ表示します。

≪管理機能≫

本製品に対応した弊社製品を集中管理するために、わかりやすい設定インターフェースを採用しています。設定のバックアップと復元も簡単です。また、Syslog（P.4）を利用したログ機能、ping を利用したアライブチェック機能など備えています。

Syslog とは

UNIX サーバーや Linux サーバーが標準で備えるログ収集の仕組みです。ネットワーク経由で、複数の機器のログを収集し、集中管理できます。一般に、アクセスポイントやルーターやスイッチのログは、自身のメモリー内に一時的に保存します。しかし、容量が限られるため、古いものから順次消去されてしまいます。本製品を Syslog サーバーとすることで、機器のログをパソコンのハードディスクなどに保存できます。パソコンのハードディスクは容量が大きいため、長期間のログが保存できます。

⚠注意 本機能はサービスとして自動で開始するため、本製品を起動したり、Windows にログオンする必要はありません。

動作環境

メモ 最新情報については、インターネット（buffalo.jp）を参照してください。

対応パソコン

DOS/V 機（OADG 仕様）※

※ Core 2 Duo 以上の CPU を搭載しているパソコンを推奨します。

対応 OS

- Windows 7（各 Edition、x86 と x64 WoW64）
- Windows Vista（各 Edition、x86 と x64 WoW64）
- Windows XP SP2 以降（各 Edition、x86 のみ）
- Windows Server 2008 R2（ Standard/Enterprise、x64 WoW64）
- Windows Server 2008（ Standard/Enterprise、x86 と x64 WoW64）
- Windows Server 2003 R2（ Standard/Enterprise、x86）
- Windows Server 2003 SP1 以降（Standard/Enterprise、x86）

※ Visual C++ 2008 Redistributable（ランタイム）の x86 版インストールが必要です。
（本製品のセットアップ時にインストールされます）

※ コンピューターの管理者権限（Administrator 権限）が必要です。

解像度・色数

1024 × 600 以上、16bit 色以上

対応機器

※ 本製品に対応する以前のファームウェアの場合、各機器のマニュアルに記載の手段でファームウェアアップデートをおこなってから、本製品でご利用ください。
※ WS-QL/R5 ファームウェア Ver.1.10 未満をお使いの場合、Client Util Service を最新版にアップデートしてください。

TeraStation シリーズ	TS-XL/R5、TS-RXL/R5、TS-WXL/R1、TS-WXL/1D、TS-XEL/R5、TS-XHL/R6（ファームウェア Ver.1.40 以降）
	TS-HTGL/R5、TS-RHTGL/R5（ファームウェア Ver.1.35 以降）
	WS-QL/R5（ファームウェア Ver.1.10 以降）
	WS-WVL/R1、WS-QVL/R5、WS-6VL/R5、WS-RVL/R5、TS-WVHL/R1、TS-QVHL/R6、TS-6VHL/R6、TS-8VHL/R6、TS-RVHL/R6（ファームウェア Ver.1.00 以降）

2 インストール

インストール方法

インストール方法

本製品は、以下の手順でインストールしてください。

1 パソコンの日付・時刻を正しく設定します。

⚠注意 日付・時刻を正しく設定しないと一部の機能が正しく動作しないことがあります。

2 セットアップ CD をパソコンにセットします。

3 セットアップ CD に保存されている「Setup.exe」をダブルクリックします。

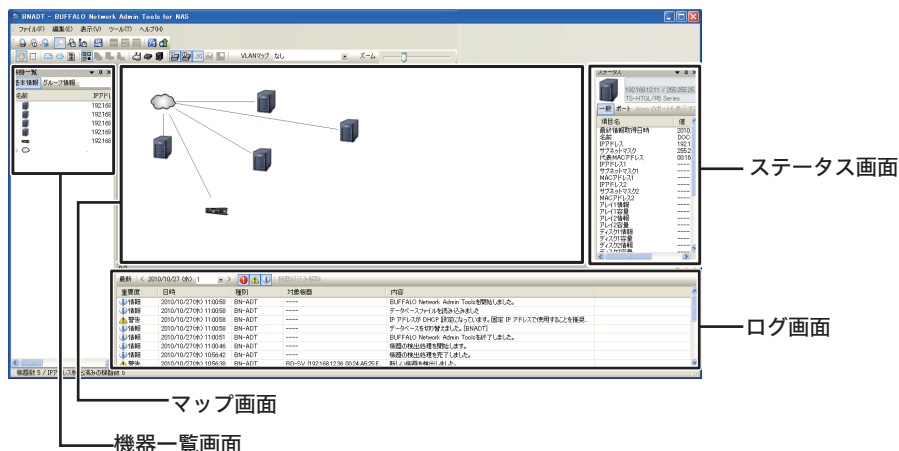
メモ 「Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable (x86) をインストールする必要があります」と表示された場合は、［はい］をクリックし、画面の指示に従ってインストールしてください。

4 本製品のインストーラーが起動します。以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

以上で本製品のインストールは完了です。

インストール後、本製品を起動するには、スタートメニューより［すべてのプログラム］－［BUFFALO］－［エアステーションユーティリティ］－［BUFFALO Network Admin Tools］を選択してください。

画面の見方

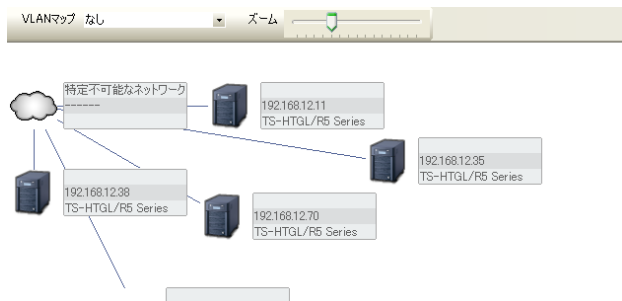
全体

本製品のインストール直後は、上記の画面のように機器は表示されておりません。
メニューより、[ツール] － [新しい機器の検出] を実行すると、接続されている機器が検出されて表示されます。

機器一覧画面

基本情報

本製品が検出した機器の一覧を表示します。

マップ画面

本製品で検出できたNASを、アイコンとしてイメージ表示します。

※画面上部にある［VLANマップ］は、本製品では使用しません。

ズーム

マップ画面の縮尺を変更できます。

メモ　**マップ画面に表示されるアイコンは、右クリックメニューの［表示・管理］－［アイコンの変更］より変更することができます。**

ステータス画面

選択した機器の状態を表示します。

一般

IP アドレスなど一般情報を表示します。

ポート

本製品では使用しません。

down のポートも表示する

本製品では使用しません。

ステータスバー

本製品が検出した機器の台数を表示します。

機器数 10/IPアドレス検出済みの機器数 5

機器数

本製品が検出し、データベースに登録した機器の総数です。この数には、本製品で管理できない機器も含みます。

IP アドレス検出済みの機器数

本製品が検出し、データベースに登録した機器の中で、本製品の管理対象となる機器数です。

ログ画面

あらかじめ設定した内容に従い、ログを表示します。また、以下のオプションがあります。

重要度	日時	種別	対象機器	内容
情報	2010/08/12(木) 09:13:45	BN-ADT	----	ステータスの再取得処理を完了しました。
警告	2010/08/12(木) 09:13:44	BN-ADT	TS-XHL148 (192.168.11.200 00:1D:7...	I12:RAIDアレイがデグレードモードで動作中です。
エラー	2010/08/12(木) 09:13:44	BN-ADT	TS-XHL148 (192.168.11.200 00:1D:7...	E23:エラーが発生し、ディスク4がRAIDアレイから外されました。
エラー	2010/08/12(木) 09:13:44	BN-ADT	TS-XHL148 (192.168.11.200 00:1D:7...	E13:RAIDアレイ1でエラーが発生しました。
警告	2010/08/12(木) 09:13:42	BN-ADT	TS-XHL314 (192.168.11.201 00:1D:7...	TeraStation(TS-XHL314)のアレイ1の空き容量が90%以下になりました。
情報	2010/08/12(木) 09:13:35	BN-ADT	----	ステータスの再取得処理を開始します。
情報	2010/08/12(木) 09:13:31	Syslog:認証	AP-2F-1 (192.168.11.230 00:1D:73:C...	: AUTH: eth1(14210): Authenticated User - 00:16:01:72:71:DA

最新

最新のログを表示します。

日付指定

指定した年月日のログを表示します。

メモ　ログの容量が一定量を超えると、自動的に分割します。日付欄の右横の▼をクリックして、表示したい分割ログを選択します。

エラー

エラーログを表示します。

警告

警告ログを表示します。

情報

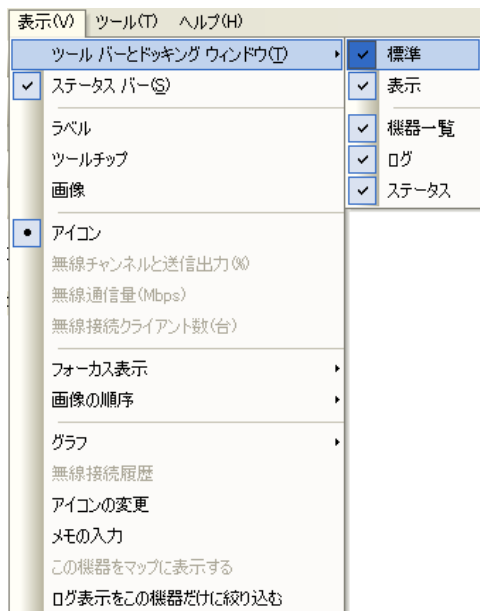
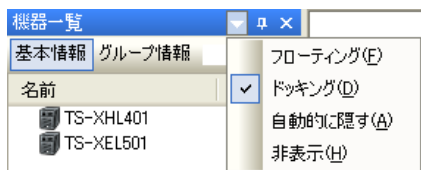
情報ログを表示します。

機器絞込み解除

指定した機器のログのみを表示する状態を解除します。

メモ　指定した機器のログのみを表示したい場合は、マップ画面で絞込みたい機器を右クリックし、［表示・管理］－［ログ表示をこの機器だけに絞り込む］を選択します。

ツールバーとドッキングウィンドウ

機器一覧画面、ステータス画面、ログ画面は、[ツールバーとドッキングウィンドウ] で表示 / 非表示を切り替えることができます。

また、個別に以下を設定することができます。

フローティング

各画面をメインウィンドウから分離して、自由な位置に画面を配置できます。

ドッキング

各画面をメインウィンドウに合体して、標準の位置に画面を配置します。

自動的に隠す

通常は画面を隠し、マウスポインターを置くと画面を表示します。

非表示

画面を表示しません。表示したい場合は、[ツールバーとドッキングウィンドウ] で設定します。

3 設定

はじめに

本製品で TeraStation シリーズをお使いいただく場合は、以下のバージョンのファームウェアが必要になります。TeraStation のファームウェアをあらかじめアップデートいただいたうえで、本製品をご利用ください。

TS-XL/R5、TS-RXL/R5、TS-WXL/R1、
TS-WXL/1D、TS-XEL/R5、TS-XHL/R6............................. ファームウェア Ver.1.40 以降

TS-HTGL/R5、TS-RHTGL/R5 .... ファームウェア Ver.1.35 以降

WS-QL/R5.. ファームウェア Ver.1.10 以降

WS-WVL/R1、WS-QVL/R5、
WS-6VL/R5、WS-RVL/R5、
TS-WVHL/R1、TS-QVHL/R6、TS-6VHL/R6、
TS-8VHL/R6、TS-RVHL/R6... ファームウェア Ver.1.00 以降

※ WS-QL/R5 ファームウェア Ver.1.10 未満をお使いの場合、Client Util Service を最新版にアップデートしてください。

※ 上記のバージョン未満のファームウェアの場合、ネットワークマップ画面への検出はおこなわれますが、本製品の機能は正しくご利用いただけません。

※ 上記のバージョン未満のファームウェアからは、本製品の［ファームウェア更新］を使用してのファームウェアアップデートはご利用いただけません。

※ 本製品に対応していない弊社製ネットワークストレージ製品についても、ネットワークマップ画面への検出はおこなわれますが、本製品の機能については、動作保証外となります。

※ TS-HTGL/R5、TS-RHTGL/R5 をお使いの場合、BN-ADT/NAS で TeraStation ファームウェアを更新することはできません。

設定の概要

インストールが完了したら、本製品を使って TeraStation を検出し、必要な設定をおこないます。TeraStation は、本製品をインストールしたパソコンと同じブロードキャストドメイン（ネットワークセグメント）であれば検出できます。
検出した TeraStation は、以下の環境であれば設定できます。

・ 本製品をインストールしたパソコンと同一 IP セグメントの場合。

・ 本製品をインストールしたパソコンと別セグメントであるが、ルーティングが適切に設定されており、相互に IP 通信が可能な場合。

メモ 本製品で管理したい TeraStation の設定を、工場出荷時の初期状態から変更している場合、念のため、設定内容をバックアップしてから、初期設定を始めてください。バックアップの方法は、各製品のマニュアルをお読みください。

設定のながれ

設定のながれは以下のとおりです。

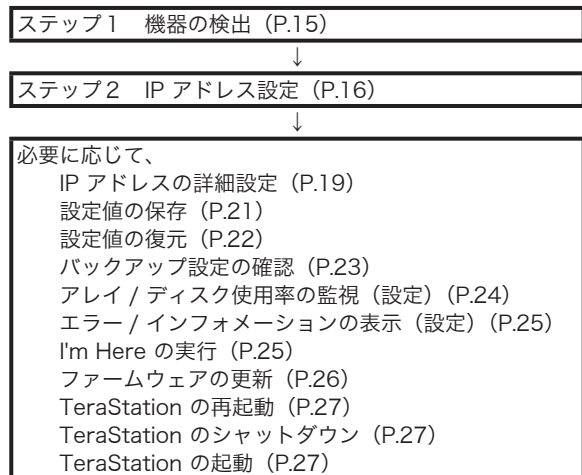
ステップ１　機器の検出（P.15）

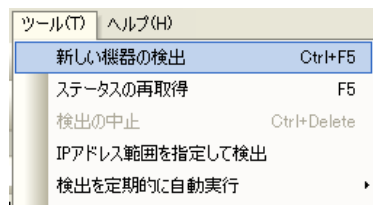
↓

ステップ２　IP アドレス設定（P.16）

↓

必要に応じて、

IP アドレスの詳細設定（P.19）
設定値の保存（P.21）
設定値の復元（P.22）
バックアップ設定の確認（P.23）
アレイ / ディスク使用率の監視（設定）（P.24）
エラー / インフォメーションの表示（設定）（P.25）
I'm Here の実行（P.25）
ファームウェアの更新（P.26）
TeraStation の再起動（P.27）
TeraStation のシャットダウン（P.27）
TeraStation の起動（P.27）

ステップ1　機器の検出

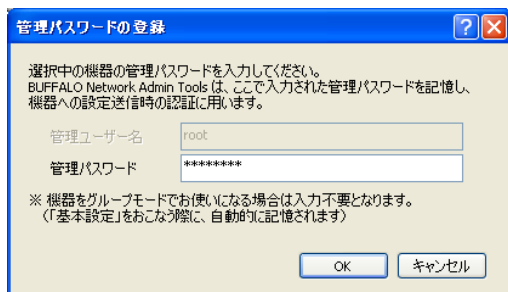
本製品のインストールが完了したら、最初にネットワークに接続されている機器の検出をおこないます。
［ツール］－［新しい機器の検出］をクリックしてしばらく時間が経つと、ネットワークに接続されている機器が検出されます。

メモ
- 検出した機器の中で操作できるのは、本製品をインストールしたパソコンと同じブロードキャストドメイン内にある本製品に対応したバッファロー製 NAS のみです。
  ルーターやレイヤー 3 スイッチ越しのネットワークにある機器を検出するには、［ツール］－［IP アドレス範囲を指定して検出］を実行してください。
  （検出に時間がかかります。また、機器によっては検出できない場合があります。）
- ［ツール］－［検出を定期的に自動実行］を有効にすると、機器の増減が定期的に調べられます。
- 非対応機器、ファームウェアがある場合、検出に時間がかかります。
- 検出の進捗については、「ログ画面」(P.11) と画面右下のプログレスバーで確認できます。
- ［新しい機器の検出］は、データベースに登録済みの機器以外に、ブロードキャストドメイン内の新しい機器も検出します。
  ［ステータスの再取得］は、データベースに登録済みの機器から情報のみを再取得します。

ステップ2　IP アドレス設定

検出した機器に、IP アドレスを設定します。
IP アドレスの設定対象機器が同じブロードキャストドメイン内に接続されていれば、設定用パソコンと IP セグメントが異なっていても、以下の手順で IP アドレスを設定できます。
DHCP サーバーで動的に IP アドレスを設定している場合、ここで固定 IP アドレスに設定できます。

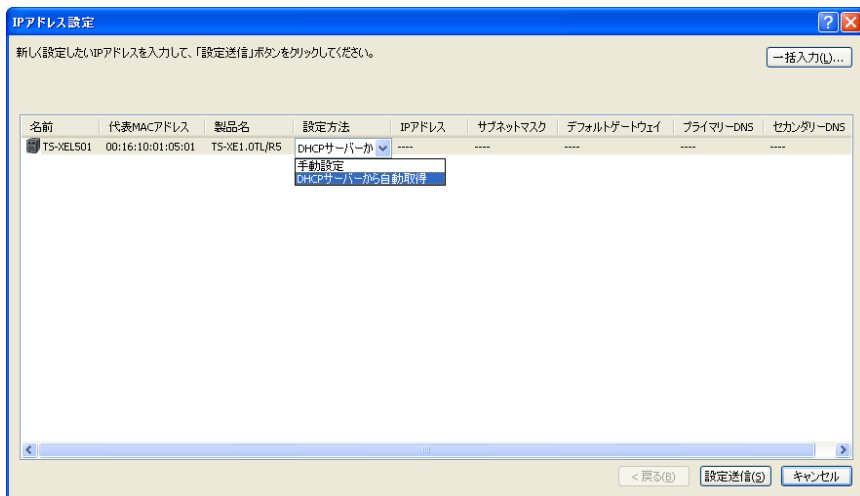
メモ ブロードキャストドメイン外に接続されている機器には、本機能はお使いいただけません。

1 マップ画面で、IP アドレスを設定したい TeraStation を右クリックし、［管理パスワードの登録］を選択します。

2 TeraStation の現在の管理パスワードの入力を求められます。TeraStation に設定している管理パスワードを入力して、［OK］をクリックしてください。

メモ WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズの場合、管理ユーザー名に管理者ユーザー名を入力してください。

3 マップ画面で、IP アドレスを設定したい機器を右クリックし、[IP アドレス設定] を選択します。
（複数の機器を選択して設定することもできます。この際、「対象機器の確認」画面が表示されます。）

4 一覧から、［設定方法］をクリックし、手動設定または DHCP サーバーから自動取得を選択します。

⚠注意
- TS-VHL シリーズをお使いの場合、ファームウェアのバージョンによってはプライマリー DNS およびセカンダリー DNS の設定はできません。
- TS-HTGL シリーズをお使いの場合、プライマリー DNS およびセカンダリー DNS の設定はできません。

5 手順４で「手動設定」を選択した場合は、IP アドレスとサブネットマスクをクリックして設定します。

6 ［設定送信］をクリックして設定を完了します。

7 「 ステップ１　機器の検出」(P.15) を実行して、最新の情報を取得します。

ステップ3　TeraStation に固有の設定

必要に応じて TeraStation に固有の設定をします。

⚠注意
- TeraStation のシリーズによって、対応する機能が異なります。
- TeraStation が EM モード（復旧モード）で起動している時は「IP アドレスの詳細設定」のみ利用できます。
- WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズは、Active Directory ドメインに参加していないことが条件です。

	TS-VHL シリーズ TS-WVHL/R1 TS-QVHL/R6 TS-6VHL/R6 TS-8VHL/R6 TS-RVHL/R6	TS-X シリーズ TS-XL/R5 TS-RXL/R5 TS-WXL/R1 TS-WXL/1D TS-XEL/R5 TS-XHL/R6	TS-HTGL シリーズ TS-HTGL/R5 TS-RHTGL/R5	WS-QL シリーズ WS-QL/R5 WS-VL シリーズ WS-WVL/R1 WS-QVL/R5 WS-6VL/R5 WS-RVL/R5
IP アドレスの詳細設定（P.19）	○	○	○	○
設定値の保存（P.21）	－	○	○	－
設定値の復元（P.22）	－	○	○	－
バックアップ設定の確認（P.23）	○	○	○	－
アレイ / ディスク使用率の監視（設定）（P.24）	○	○	○	○
エラー / インフォメーションの表示（設定）（P.25）	○	○	○	－
I'm Here の実行（P.25）	○	○	○	○
ファームウェアの更新（P.26）	○	○	－	－
TeraStation の再起動（P.27）	○	○	○	○
TeraStation のシャットダウン（P.27）	○	○	○	○
TeraStation の起動（P.27）	－	○（※）	－	－

※ TS-XEL/R5 のみ、非対応です。

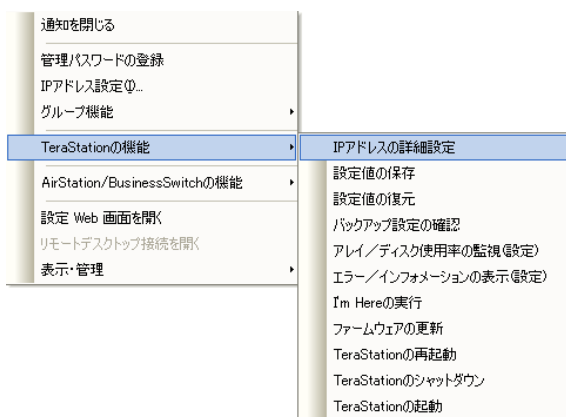
⚠注意 TeraStation に管理パスワードが設定されている場合は、「ステップ２　IP アドレス設定」の手順１〜２の手順（P.16）で、本製品に管理パスワードを登録してから以下の設定をおこなってください。

IP アドレスの詳細設定

検出した TeraStation に、IP アドレスを設定します。

⚠注意 WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズを ActiveDirectory に参加させている環境では、IP アドレスを変更することはできません。

メモ
・「ステップ２　IP アドレス設定」でも、IP アドレスを設定できますが、デフォルトゲートウェイや２番目の LAN ポートを設定する場合は、本手順を実行してください。
・IP アドレスの設定対象機器が同じブロードキャストドメイン内である場合は、設定用パソコンと IP セグメントが異なっていても、以下の手順で IP アドレスを設定できます。

1 マップ画面で、IP アドレスを設定したい TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] ー [IP アドレスの詳細設定] を選択します。

2　以下の項目を設定します。

⚠注意
- WS-VL シリーズでは、イーサネット 1 とイーサネット 2 が WS-VL のネットワーク接続（ローカルエリア接続）の順序と一致しないことがあります。
  例:イーサネット 1（LAN1）に接続した場合、WS-VL のローカルエリア接続 2 ネットワークとして表示される。
- TS-VHL シリーズをお使いの場合、ファームウェアのバージョンによっては優先 DNS サーバーアドレスおよび代替 DNS サーバーアドレスの設定はできません。
- TS-HTGL シリーズをお使いの場合、優先 DNS サーバーアドレスおよび代替 DNS サーバーアドレスの設定はできません。

・TS-X シリーズでは、ファームウェアのバージョンによって、LAN2 の IP アドレスを [使用しない] から [使用する] へ変更できないことがあります。このようなときは、NAS Navigator2 または Web 設定画面より変更を行ってください。

パラメーター	説明
イーサネット 1	1 番目の LAN ポートを設定します。
DHCP	［使用する］または［使用しない］を設定します。
IP アドレス	DHCP を［使用しない］場合は、IP アドレスを設定します。
サブネットマスク	DHCP を［使用しない］場合は、サブネットマスクを設定します。
イーサネット 2	複数の LAN ポートがある場合、2 番目の LAN ポートを設定します。使用する場合は、チェックマークを付けてから、各項目を設定します。設定項目は「イーサネット 1」と同じです。
デフォルトゲートウェイ	DHCP を［使用しない］場合は、デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。
優先 DNS サーバーアドレス	優先する DNS サーバーの IP アドレスを設定します。
代替 DNS サーバーアドレス	代替の DNS サーバーの IP アドレスを設定します。

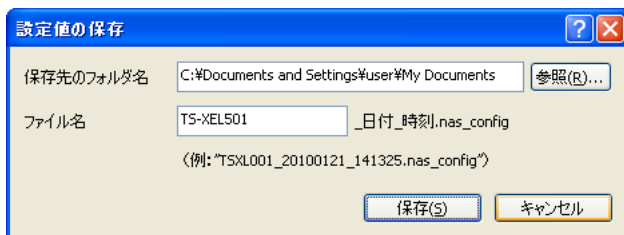
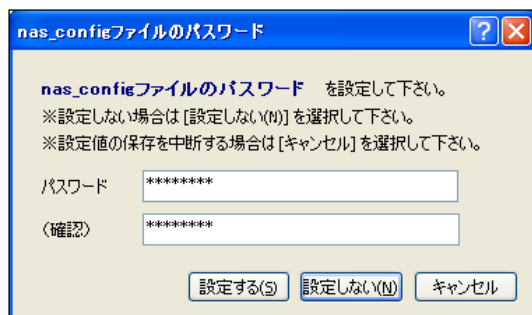
3 設定が完了したら、[設定送信] をクリックします。
設定後、自動的に TeraStation の検出が実行されますので、検出が終了するまでお待ちください。(進捗については、「ログ画面」を参照してください。)

設定値の保存

TeraStation に設定した値をファイルとして保存します。

⚠注意 TS-X シリーズと TS-HTGL シリーズのみ利用できます。

1 マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] ー [設定値の保存] を選択します。

2 保存先のフォルダ名やファイル名を指定して、[保存] をクリックします。

3 パスワードを設定する場合は、パスワードを入力したら、[設定] をクリックします。パスワードを設定しない場合は、[設定しない] をクリックします。

設定値の復元

TeraStation に設定した値をファイルから復元します。

⚠注意　TS-X シリーズと TS-HTGL シリーズのみ利用できます。

1　マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] ー [設定値の復元] を選択します。

2　設定ファイルを指定して、[開く] をクリックします。

3　復元する項目を選択して、[復元] をクリックします。

メモ　設定値の保存時にパスワードを設定した場合は、パスワードの入力を求められます。パスワードを入力して、[OK] をクリックしてください。

4　「復元を実行しますか？」と表示されたら、[実行] をクリックします。

バックアップ設定の確認

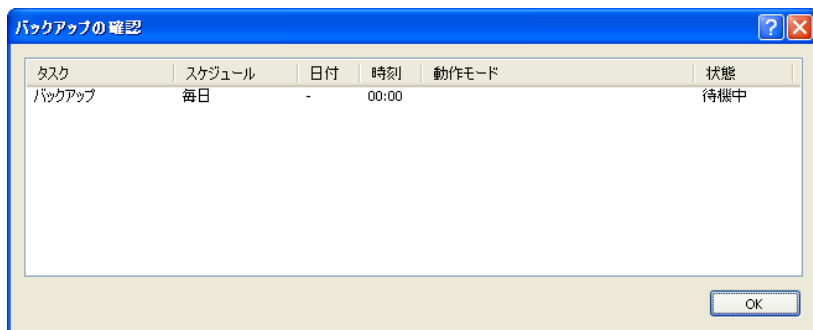
TeraStation のバックアップ設定を確認します。

⚠注意　TS-X シリーズ、TS-HTGL シリーズのみ利用できます。

メモ　本製品から TeraStation のバックアップを設定することはできません。バックアップの方法は、各機器のマニュアルをお読みください。

1　マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] – [バックアップ設定の確認] を選択します。

2　TeraStation のバックアップ設定が表示されます。内容を確認したら、[OK] をクリックして終了します。

3
設定

アレイ / ディスク使用率の監視（設定）

アレイ / ディスク使用率の監視し、設定値以下になったらログに警告として記録します。

1 マップ画面で、TeraStation を右クリックし、［TeraStation の機能］－［アレイ / ディスク使用率の監視（設定)］を選択します。

2 「TeraStation のアレイ／ディスク使用率を監視する」にチェックマークを付けて、設定したら、［OK］をクリックします。

メモ TeraStation を検出したときに、ログに記録します。［ツール］－［検出を定期的に自動実行］－［新しい機器の検出］を設定すると便利です。

エラー / インフォメーションの表示（設定）

TeraStation を監視し、エラー / インフォメーションをログに記録します。

⚠注意　TS-X シリーズ、TS-HTGL シリーズ、TS-VHL シリーズのみ利用できます。

1　マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] － [エラー / インフォメーションの表示（設定）] を選択します。

2　表示したい項目にチェックマークを付けて、[OK] をクリックします。

メモ
- TeraStation を検出したときに、ログに記録します。[ツール] － [検出を定期的に自動実行] － [新しい機器の検出] を設定すると便利です。
- エラー / インフォメーション一覧は「TeraStation のエラー一覧」(P.63) および「TeraStation のインフォメーション一覧」(P.65) を参照してください。

I'm Here の実行

TeraStation からメロディーが鳴ります。TeraStation が複数ある場合の識別に便利です。

⚠注意　WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズを ActiveDirectory に参加させている環境では、I'm Here 機能を使用することはできません。

1　マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] － [I'm Here の実行] を選択します。

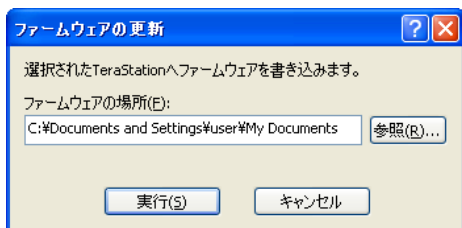
2　TeraStation からメロディーが鳴ります。

ファームウェアの更新

TeraStation のファームウェアを更新します。
あらかじめ､｢バージョンアップ確認設定機能｣(P.50) や｢バージョンアップ機能｣(P.51) を利用するか、弊社ホームページ（buffalo.jp）のダウンロードサービスにて、ファームウェアをダウンロードしてください。ダウンロードしたファイルをダブルクリックすると、ファイルが解凍され自動的に更新方法を記載した HTML ファイルが表示されます。以降は表示された HTML ファイルの指示にしたがって、ファームウェアのファイルを確認してください。

⚠注意
- TS-X シリーズと TS-VHL シリーズのみ利用できます。
- 本製品に対応する以前のファームウェアの場合は、各機器のマニュアルに記載の手段でファームウェアアップデートをおこなってください。

1 マップ画面で､TeraStation を右クリックし､[TeraStation の機能] ー [ファームウェアの更新] を選択します。

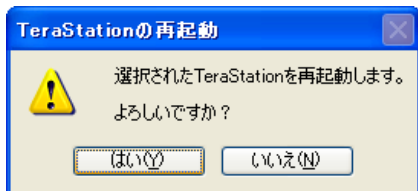
2 ファームウェアのファイルを指定したら、[実行] をクリックします。
以降は画面の指示に従ってください。

⚠注意
- 更新中は、パソコンと機器、およびネットワークの経路上に存在するハブやスイッチの電源を切らないでください。
- 更新作業中は決して機器内のファイルにアクセスを行わないでください。
- 更新が完了するまで時間がかかる場合がありますが , 必ずメッセージ が表示されるまでお待ちください 。
- 無線接続にて運用されている場合は、無線の状態によってはファームウェアの更新が正常に行えない場合があります。可能な場合は有線接続に変更してから更新を行ってください。
- 更新を行うパソコンに複数のネットワークインターフェースが接続されていると、更新に失敗する場合があります。機器が接続されていないインターフェースを無効に設定した上で更新を行ってください。

TeraStation の再起動

TeraStation を再起動します。

⚠注意 WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズを ActiveDirectory に参加させている環境では、TeraStation の再起動機能を使用することはできません。

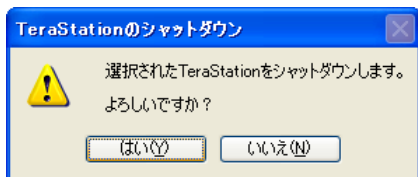
1 マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] − [TeraStation の再起動] を選択します。

2 [はい] をクリックすると、TeraStation が再起動します。

TeraStation のシャットダウン

TeraStation の電源を切ります。

⚠注意 WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズを ActiveDirectory に参加させている環境では、TeraStation のシャットダウン機能を使用することはできません。

1 マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] − [TeraStation のシャットダウン] を選択します。

2 [はい] をクリックすると、TeraStation の電源が切れます。

TeraStation の起動

TeraStation を再起動します。

⚠注意
- TS-XEL 以外の TS-X シリーズのみ利用できます。
- TeraStation の設定画面 [ネットワーク]-[ネットワーク]-[IP アドレス設定]-[Wake on LAN] で [使用する] を選択している必要があります。

1 マップ画面で、TeraStation を右クリックし、[TeraStation の機能] − [TeraStation の起動] を選択すると、TeraStation が起動します。

3
設定

4 管理機能

管理機能の概要

本製品には、機器を管理するための機能が多数あります。その中でも、主な管理機能は以下の通りです。

主な管理機能	説明
ログ機能設定（P.29）	Syslog を利用して、機器のログを集中管理します。
機器一覧のエクスポート（P.33）	管理している機器の一覧を CSV ファイルとして保存します。
ステータスのエクスポート（P.34）	機器のステータス情報を CSV ファイルとして保存します。
アライブチェック機能設定（P.35）	ping を利用して、ネットワークの障害を早期発見します。
マップの利用（P.37）	マップを利用して、機器の接続状況を視覚的に把握します。
メモの入力（P.45）	マップ上の機器アイコンにメモを付けます。
バックアップと復元（P.46）	機器の設定を管理します。
外部アプリケーション設定（P.48）	よく使う外部アプリケーションを、簡単な操作で実行できます。
バージョンアップ確認機能設定（P.50）	本製品の起動時と、一定時間おきに、機器のファームウェアのバージョンアップを確認できます。
バージョンアップ確認(P.51）	機器のファームウェアのバージョンアップを確認できます。
スケジュール設定（P.54）	よく使うタスクを、設定した日時に自動で実行します。
設定 Web 画面を開く(P.56）	機器の Web 設定画面を開くことができます。
リモートデスクトップ接続を開く（P.56）	機器のリモートデスクトップを開くことができます。

ログ機能設定　～ Syslog の利用 ～

各機器のログは、自身のメモリー内に一時的に保存します。しかし、容量が限られるため、古いものから順次消去されてしまいます。本製品を Syslog サーバーとすることで、機器のログをパソコンのハードディスクなどに保存できます。パソコンのハードディスクは容量が大きいため、長期間のログを保存できます。また、複数の機器のログをまとめて一元管理できます。

⚠注意 **本機能はサービスとして自動で開始するため、本製品を起動したり、Windows にログオンする必要はありません。**

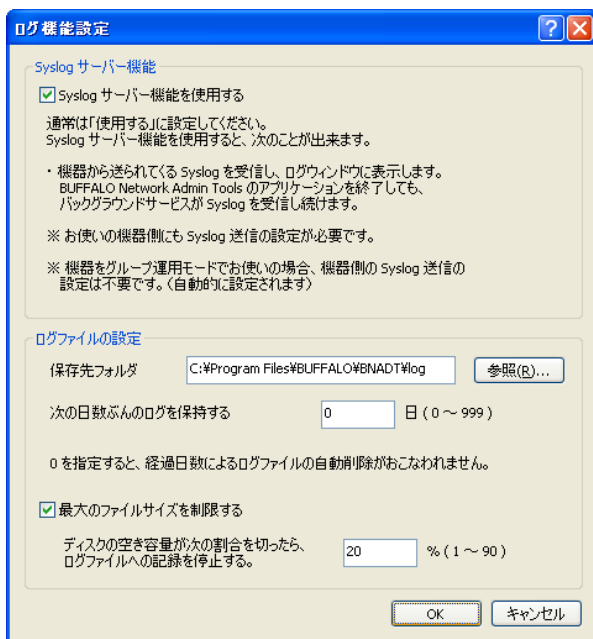
メモ **ログを受信する機器の IP アドレスは、固定（手動）設定にしておくことをおすすめします。**

設定

本製品を Syslog サーバーとし、機器のログを収集するための設定をおこないます。

1 **本製品のメイン画面で、［ツール］－［オプション］－［ログ機能設定］を選択します。**

2 **各項目を設定し、［OK］をクリックします。**

4
管理機能

パラメーター	説明
Syslog サーバー機能を使用する	チェックマークをつけると、本製品を Syslog サーバーとします。機器のログを収集し、ファイルとして保存できます。 （初期値：チェックオン（使用する））
保存先フォルダ	ログの保存先を指定します。 （初期値：(x86)C:¥Program Files¥BUFFALO¥BNADT¥log (x64)C:¥Program Files(x86)¥BUFFALO¥BNADT¥log）
次の日数ぶんのログを保持する	ログを保存する日数を、0 ～ 999 の範囲で指定します。 0 を指定すると、古いログを削除せず、すべて保存します。 （初期値：0 日）
最大のファイルサイズを制限する	チェックマークをつけると、ログファイルのサイズを制限できます。制限しない場合は、ディスクの空き容量いっぱいまで記録します。 （初期値：チェックオン（制限する））
ディスクの空き容量が次の割合を切ったら、ログファイルへの記録を停止する	ログファイルのサイズを制限する場合の条件を設定します。 （初期値：20%）

ログ画面を見る

収集した機器のログは、ログ画面で確認することができます。
ログ画面が表示されていない場合は、[表示] ー [ツールバーとドッキングウィンドウ] で「ログ」にチェックマークをつけてください。

見たい内容を変更するには、以下をクリックします。

パラメーター	説明
最新	クリックすると、最新のログを表示します。
日付指定	クリックするとカレンダーが表示されるので、参照したいログの年月日を指定します。
分割ログの選択▼	クリックすると、表示したい分割ログが選択できます。本製品は、ログが一定量を超えると、自動的に分割します。
エラー	クリックするたびに、エラーログの表示 / 非表示を切り替えます。 ※エラーは、深刻で緊急に対処すべき事象のログです。
警告	クリックするたびに、警告ログの表示 / 非表示を切り替えます。 ※警告は、対処を検討すべき事象のログです。
情報	クリックするたびに、情報ログの表示 / 非表示を切り替えます。 ※情報は、機器の通常動作のログです。
機器絞込み解除	クリックすると、指定した機器のログのみを表示する状態を解除し、すべての機器のログを表示します。

ログ表示をこの機器だけに絞り込む

この設定をおこなうと、特定の機器のログだけを参照することができます。

1 マップ画面で、ログを参照したい機器を右クリックし、[表示・管理] ー [ログ表示をこの機器だけに絞り込む] を選択します。

ログを CSV 形式で保存する

この設定をおこなうとログを汎用的な CSV 形式のファイルとして保存できます。また、特定の条件で絞り込んでログを保存することができます。

⚠注意 特定の機器のみのログを保存したい場合は、あらかじめマップ上で機器を選択してください。

1 本製品のメイン画面で、[ファイル] − [エクスポート] − [ログのエクスポート] を選択します。

2 各項目を設定し、[OK] をクリックします。

パラメーター	説明
日付	[全ての日付]（初期値）、[今日のみ]、[開始日] と [終了日] による範囲のいずれかを指定します。
重要度	[全て]（初期値）、または [次の重要度のみ]（エラー、警告、情報）のいずれかを指定します。
種別	[全て]（初期値）、または [次の種別のみ]（個別の Syslog ファシリティー）を指定します。
対象機器	[全ての機器]（初期値）、[選択中の機器のみ] のいずれかを指定します。

⚠注意 ログ対象機器として [選択中の機器のみ] を指定するには、あらかじめ手順 1 の前に、マップ上で機器を選択する必要があります。

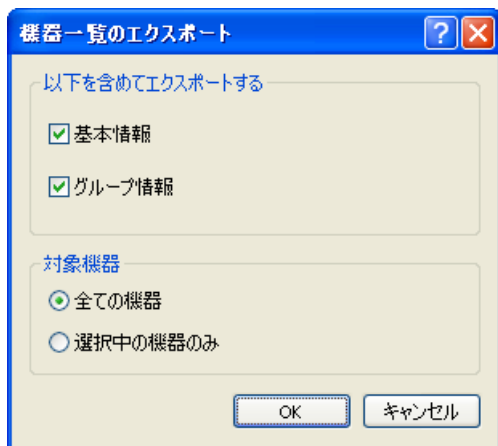
3 ファイル名と保存先を指定して、[OK] をクリックします。

機器一覧のエクスポート

機器一覧のエクスポートを利用すると、機器一覧画面（P.7）で表示する情報を汎用的な CSV 形式のファイルとして保存できます。

⚠注意 特定の機器のみ保存したい場合は、あらかじめマップ上で機器を選択してください。

1 本製品のメイン画面で、[ファイル] − [エクスポート] − [機器一覧のエクスポート] を選択します。

2 エクスポートしたい内容と対象機器を選択し、[OK] をクリックします。

パラメーター	説明
基本情報	機器一覧画面の基本情報タブで表示する情報。
グループ情報	機器一覧画面のグループ情報タブで表示する情報。

⚠注意 対象機器として［選択中の機器のみ］を指定するには、あらかじめ手順 1 の前に、マップ上で機器を選択する必要があります。

3 ファイル名と保存先を指定して、[OK] をクリックします。

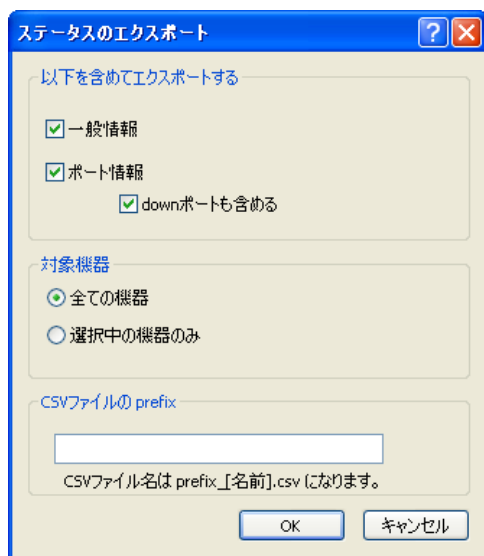
4 管理機能

ステータスのエクスポート

ステータスのエクスポート機能を利用すると、ステータス画面（P.9）で表示する情報を汎用的なCSV 形式のファイルとして保存できます。

⚠注意 特定の機器のみ保存したい場合は、あらかじめマップ上で機器を選択してください。

1 本製品のメイン画面で、［ファイル］－［エクスポート］－［ステータスのエクスポート］を選択します。

2 エクスポートしたい内容と対象機器を選択し、［OK］をクリックします。

パラメーター	説明
一般情報	ステータス画面の一般タブで表示する IP アドレスなどの情報。
ポート情報	ステータス画面のポートタブで表示する情報。ダウンしているポートは含みません。
down ポートも含める	通常は表示しないダウンしてるポートの情報。
CSV ファイルの prefix	任意の名前を指定します。実際のファイル名は、各機器ごとに「prefix_[機器名].csv」となります。

⚠注意 対象機器として［選択中の機器のみ］を指定するには、あらかじめ手順 1 の前に、マップ上で機器を選択する必要があります。

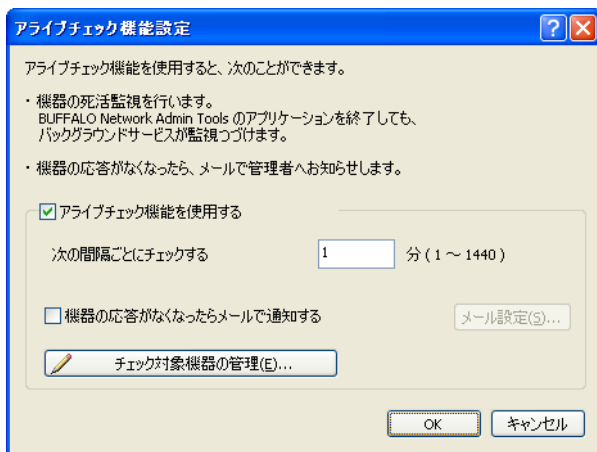
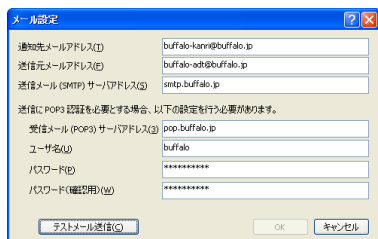
3 保存先を指定して、［OK］をクリックします。

アライブチェック機能設定　～ ping の利用 ～

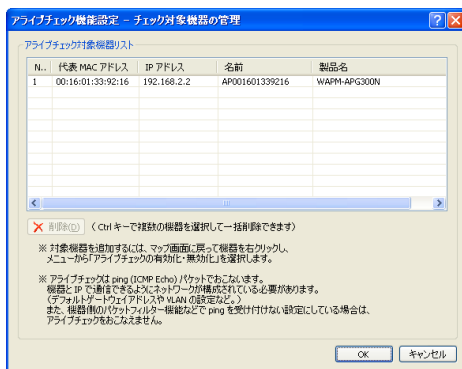
アライブチェック機能を利用すると、指定した機器に定期的に ping パケットを送り、応答がない場合は、管理者にメールで通知することができます。

⚠注意
- 本機能はサービスとして自動で開始するため、本製品を起動したり、ログオンする必要はありません。
- パケットフィルターなどで ping（ICMP）を遮断されないよう、機器側にあらかじめ ping パケットに応答する設定をおこなっておいてください。

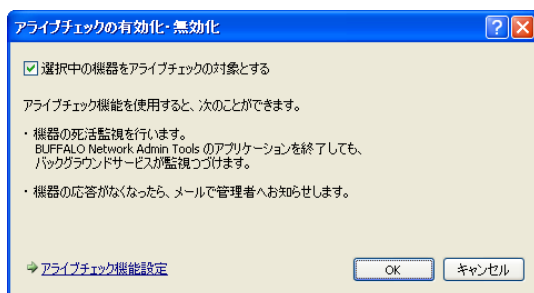
1 本製品のメイン画面で、[ツール] – [オプション] – [アライブチェック機能設定] を選択します。

2 各項目を設定し、[OK] をクリックします。

メール設定

※ メールのポート番号は、任意に設定できます。(P.36)

※ テストメール送信に成功しないと [OK] ボタンをクリックできません。

チェック対象機器の管理

パラメーター	説明
アライブチェック機能を使用する	チェックマークをつけると、アライブチェックが有効になります。 （初期値：チェックオン（使用する））
次の間隔ごとにチェックする	チェックする間隔を分単位で指定します。 （初期値：1 分ごと）
機器の応答がなくなったらメールで通知する	メールで通知する場合は、チェックマークをつけて、メール設定画面で必要事項を設定します。 （初期値：チェックオフ（通知しない））
チェック対象機器の管理	対象機器の一覧を表示します。 また、対象から機器を削除することもできます。

3 各機器を右クリックし、[表示・管理] − [アライブチェックの有効化・無効化] を選択します。

4 「選択中の機器をアライブチェックの対象とする」にチェックマークをつけて、[OK] をクリックします。

メモ メールのポート番号の設定について

メール設定の画面（P.35）では、送信メール・受信メール共に任意のポート番号を設定することができます。「送信メール（SMTP）サーバアドレス」「受信メール（POP3）サーバアドレス」の末尾に“:”（コロン）を加えて、使用したいポート番号を設定してください。

設定例：smtp.buffalo.jp：587
　　　　pop.buffalo.jp：110

ポート番号を指定しない場合は、以下の初期値が適用されます。

初期値：送信メール（SMTP）　25
　　　　受信メール（POP3）　110

マップの利用

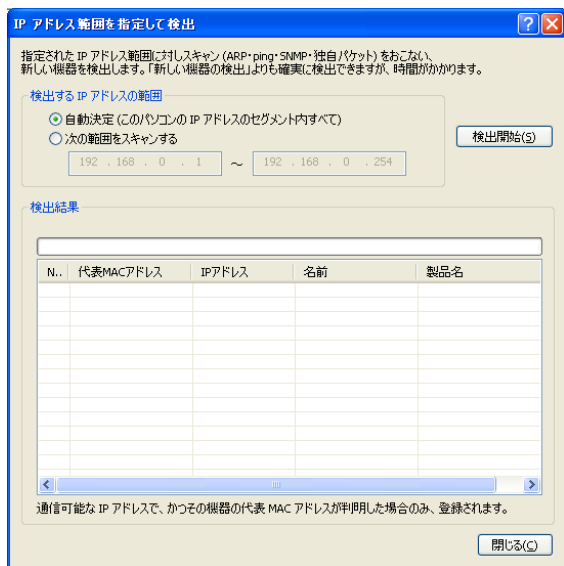
本製品で検出できた NAS を、アイコンとしてイメージ表示します。

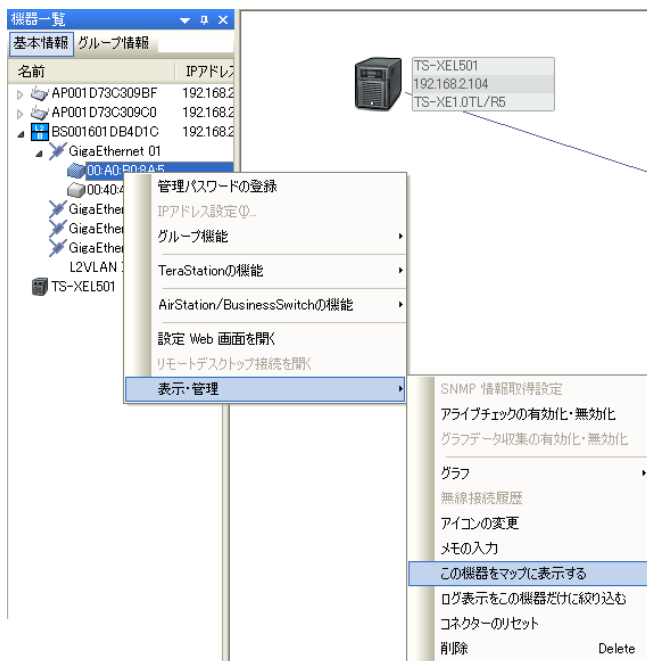
異なるネットワークセグメントの機器をマップに表示するには

本製品をインストールしたパソコンと異なるネットワークセグメントの機器をマップに表示するには、以下の設定をおこなってください。

⚠注意 設定をおこなっても、マップに表示されないネットワーク機器もあります。

1 本製品のメイン画面で、［ツール］－［IP アドレス範囲を指定して検出］を選択します。

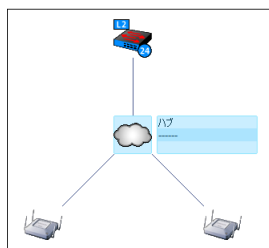
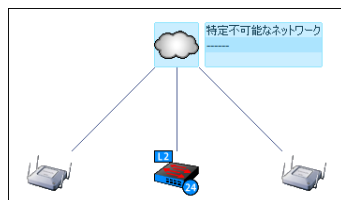
2 検出する IP アドレスの範囲を設定して、［検出開始］をクリックします。

メモ IP アドレス範囲を指定して検出をおこなうと、機器の検出が通常よりも高い精度でおこなわれ、弊社製品以外の機器も検出できます。
（機器によっては検出できない場合もあります）

3 機器一覧画面で、マップに表示したい機器を右クリックし、［表示・管理］－［この機器をマップに表示する］を選択します。

メモ
- 機器一覧画面に表示された機器を展開すると、各インターフェースの下に新しい機器が見つかることがあります。
- マップ画面に新しいアイコンが表示されたら、必要に応じて、アイコンを変更してください。

クラウド（雲型）アイコンについて

マップは、アクセスポイントやスイッチから取得した情報を基にして描画されます。アクセスポイントやスイッチに「SNMP 情報取得設定」をおこなう必要があります。

・マップの基となる情報が取得できない場合は、「特定不可能なネットワーク」クラウドにまとめてアイコンが表示されます。

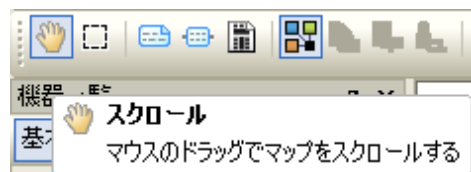
・SNMP に対応していないハブ（通常のスイッチングハブなど）は検出されませんが、そのようなハブが設置されていると推定される箇所には「ハブ」クラウドが表示されます（複数個のハブを重ねて設置していても、「ハブ」クラウドは 1 段しか表示されません）。

操作方法

マップ画面における各種操作方法は以下の通りです。

マップを拡大 / 縮小したい

画面上部にある［ズーム］スライダーを左右に動かします。
スライダーが表示されていない場合は、［表示］－［ツールバーとドッキングウィンドウ］で、［表示］をクリックすると表示できます。

隠れている部分をスクロールしたい

ツールバーの［スクロール］をクリックしてから、マップ内の何もない部分をドラッグします。
上下・左右のスクロールバーでもスクロールできます。

複数のアイコンをまとめて選択したい

［Ctrl］を押しながらクリックします。
ツールバーの［範囲選択］をクリックしてから、ドラッグしても選択できます。

アイコンを移動したい

アイコンをドラッグします。

アイコンを変更したい

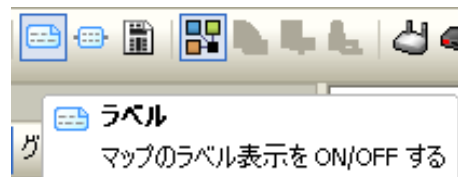
アイコンを右クリックして、［表示・管理］－［アイコンの変更］をクリックします。

メモ　変更できないアイコンもあります。

機器のラベル（概要情報）を表示したい

アイコンにマウスポインターをかざすと、ラベルを表示します。

機器のラベル（概要情報）を常時表示したい

ツールバーの［ラベル］をクリックすると、常時表示します。

メモ　ツールバーが表示されていない場合は、[表示］－［ツールバーとドッキングウィンドウ］で、［表示］をクリックすると表示できます。

機器のステータスを知りたい

アイコンをクリックすると、ステータス画面に表示します。

ツールチップ（コネクターの概要情報）を表示したい

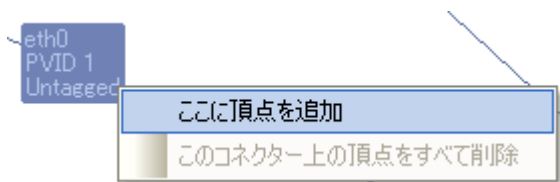
ツールバーの［ツールチップ］をクリックすると、常時表示します。

ツールチップ（コネクターの概要情報）を常時表示したい

ツールバーの［ツールチップ］をクリックすると、常時表示します。

メモ ツールバーが表示されていない場合は、［表示］－［ツールバーとドッキングウィンドウ］で、［表示］をクリックすると表示できます。

コネクター（機器と機器を結ぶ線）を曲げて、見やすくしたい

コネクターを右クリックして頂点を追加し、頂点をドラッグします。

メモ コネクター（機器と機器を結ぶ線）上でダブルクリックしても、頂点を追加できます。

※画面上部にある［VLAN マップ］は、本製品では使用しません。

マップに表示されているコネクター（機器と機器を結ぶ線）の内容を知りたい

マップに表示されているコネクター（機器と機器を結ぶ線）は、実線が有線 LAN、点線が無線 LAN、二重線が WDS で接続している無線 LAN となっています。

インポートした画像を、一時的に非表示にしたい

ツールバーの [画像] をクリックすると､インポートした画像の表示･非表示を切り替えます。マップ画面の動作が遅い・マップ画面が見づらいなどの支障がある場合に使います。

画像をインポートしたい

マップ画面の背景に画像を表示できます。［ファイル］－［インポート］－［画像のインポート］をクリックしてインポートします。

メモ
- 複数の画像をインポートできますが、動作が遅くなる場合があります。
- あらかじめ Visio などで作成したフロア図を画像として表示し、機器アイコンを配置すると便利です。
- インポートできる画像のファイル形式は、次のとおりです。

ファイル形式	拡張子
GIF	.gif
JPEG	.jpg、.jpeg、.jpe
BMP	.bmp
PNG	.png
TIFF	.tif、.tiff
SVG（SVGZ）	.svg、.svgz

注意　SVG（SVGZ）画像は、内容によっては、正しく描画されない場合があります。

インポートした画像を移動や拡大・縮小したい

1　本製品のメイン画面で、［編集］－［画像の選択］から、移動や拡大・縮小したい画像を選択します。

2　ドラッグして、移動や拡大・縮小します。

インポートした画像の順序を前面・背面に移動したい

複数の画像をインポートした場合、画像の重なりを前面・背面に移動します。

1　本製品のメイン画面で、［編集］－［画像の選択］から、順序を前面・背面に移動したい画像を選択します。

2　本製品のメイン画面で、［表示］－［順序］から、移動したい内容を選択します。

インポートした画像を削除したい

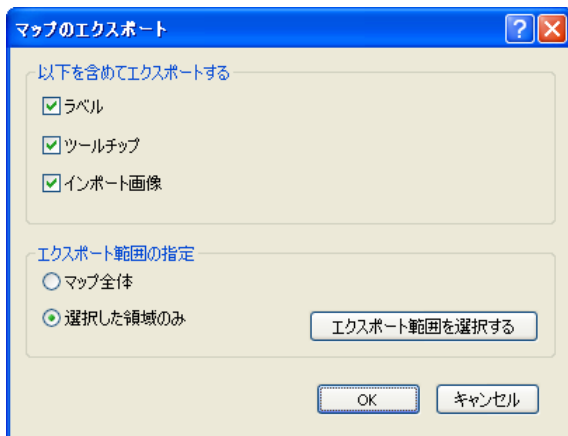
1 本製品のメイン画面で、［編集］－［画像の選択］から、削除したい画像を選択します。

2 本製品のメイン画面で、［編集］－［削除］を選択します。

マップをエクスポートしたい

マップとして表示した内容を画像データとして保存します。

1 本製品のメイン画面で､［ファイル］－［エクスポート］－［マップのエクスポート］を選択します。

2 エクスポートしたい内容と範囲を選択し、［OK］をクリックします。

パラメーター	説明
ラベル	機器の概要情報
ツールチップ	コネクターの概要情報
インポート画像	インポートした画像

メモ　エクスポート範囲を［選択した領域のみ］指定する場合､指定した範囲内に完全に収まっているアイコン・コネクタ・ツールチップ・インポート画像のみがエクスポートの対象となります。例えば、インポート画像の一部分のみが範囲にかかっているような場合、その画像はエクスポートされません。

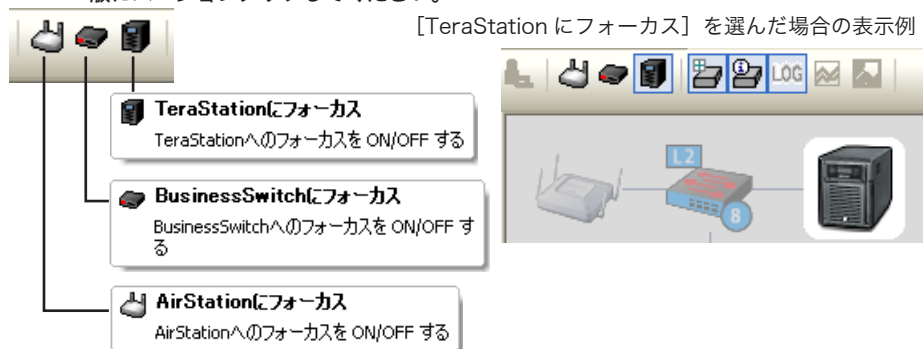
3 ファイル名と保存先を指定して、［OK］をクリックします。

注意
- 実際のウインドウ上の表示と比較して細かな描画内容が若干異なることがあります。
- SVG（SVGZ）画像は、他のソフトウェアで開いたときに正しく描画されないことがあります。

4 管理機能

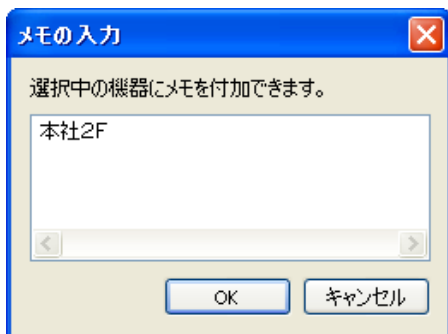
特定機器のアイコンのみを強調表示したい

表示バーの［AirStation にフォーカス］、［BusinessSwitch にフォーカス］、［TeraStation にフォーカス］のいずれかをクリックすると、該当機器のアイコンが、強調表示に変わります。
管理する機器が増えた時に、注目したい機器が目立って便利です。

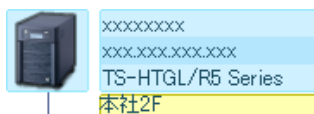
メモ **以下のようなアイコンが表示されない場合は、本製品と機器側のファームウェアを最新版にバージョンアップしてください。**

メモの入力

マップ上の機器アイコンにメモを付けます。

1 マップ画面で、メモを付けたい機器を右クリックし、[表示・管理] − [メモの入力] を選択します。

2 メモを入力し、[OK] をクリックします。

メモ　メモは3行まで付けることができます。

3 マップ上の機器アイコンにメモが付きます。

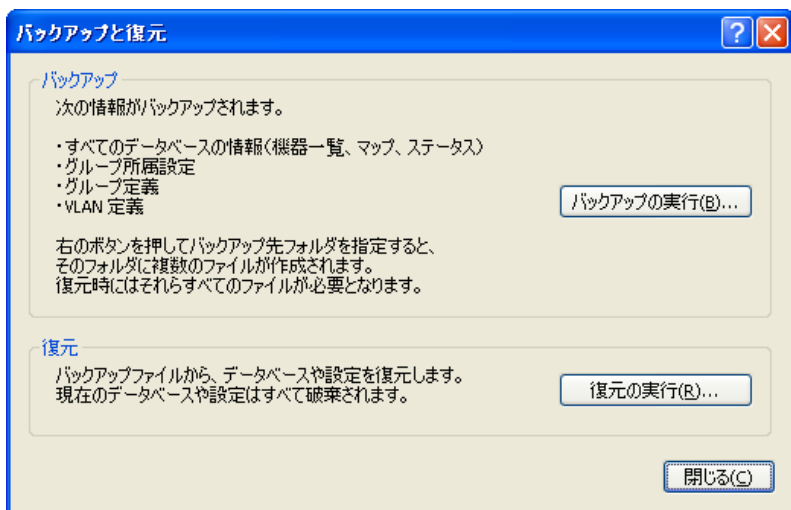
4
管理機能

バックアップと復元

本製品で設定した内容を、ファイルにバックアップしたり、バックアップしたファイルから設定を復元できます。本製品を設定変更する前後に、バックアップすることをお勧めします。

バックアップ

バックアップは以下の手順でおこないます。

1 本製品のメイン画面で、[ファイル] ― [バックアップと復元] を選択します。

2 [バックアップの実行] をクリックします。

3 バックアップ先を指定し、[OK] をクリックします。

メモ すでにバックアップファイルがある場合は、上書きの確認画面が表示されます。

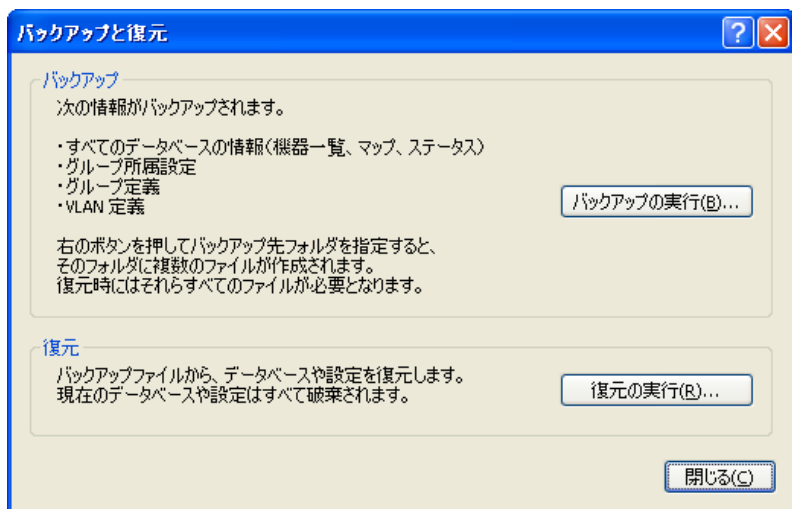
4 指定した場所に、バックアップファイルが作成されたら、[閉じる] をクリックします。

メモ
- バックアップ先には、複数のファイルが生成されます (P.61)。生成されるファイルの個数は、お使いの状況によって変わります。復元時にはこれらすべてのファイルが必要となります。
- バックアップファイルは、別途 CD-R などに保存することをお勧めします。

復元

バックアップからの復元は以下の手順でおこないます。

1 本製品のメイン画面で、[ファイル] － [バックアップと復元] を選択します。

2 [復元の実行] をクリックします。

3 バックアップファイルのある場所を指定し、[OK] をクリックします。

4 「現在の設定はすべて破棄されます。復元しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。

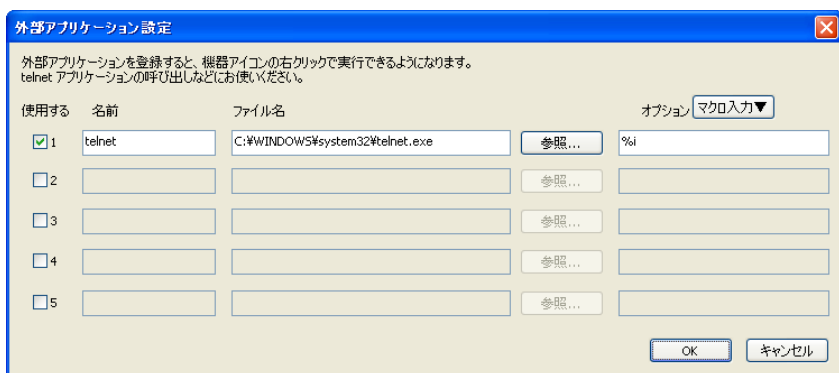
5 復元が完了したら、[閉じる] をクリックします。

4
管理機能

外部アプリケーション設定

よく使う外部アプリケーションを登録すると、簡単な操作で呼び出して実行できます。telnet クライアントなどを登録しておくと便利です。

1 本製品のメイン画面で、[ツール] − [オプション] − [外部アプリケーション設定] を選択します。

2 1 ～ 5 のいずれかにチェックマークを付けて各項目を設定したら、[OK] をクリックします。

※画面の例は 32bit 版 Windows の例です。
64bit 版の場合、C:¥WINDOWS¥Sysnative¥telnet.exe となります。
※ Windows Vista 以降では初期設定で telnet はインストールされていません。
telnet は Windows のコントロールパネルからインストールすることができます。

パラメーター	説明
名前	メニューに表示したい、任意の名前を設定します。
ファイル名	アプリケーションの実行ファイルを設定します。[参照] を押して、選択すると便利です。
オプション	アプリケーションに受け渡すパラメーターを設定します。 [マクロ] を押すと、下表のオプションを設定できます。

マクロ	説明
%i	IP アドレス
%m	代表 MAC アドレス（区切り文字なし）
%mc	代表 MAC アドレス（コロン区切り）
%md	代表 MAC アドレス（ハイフン区切り）

マクロ	説明
%ms	代表 MAC アドレス（スペース区切り）
%M	代表 MAC アドレス（大文字、区切り文字なし）
%Mc	代表 MAC アドレス（大文字、コロン区切り）
%Md	代表 MAC アドレス（大文字、ハイフン区切り）
%Ms	代表 MAC アドレス（大文字、スペース区切り）
%%	「%」の入力

3 登録したアプリケーションを呼び出すには、マップ画面から機器を右クリックし、[XXXX で開く]（XXXX は設定した名前）を選択します。

バージョンアップ確認機能設定

本製品の起動時と、一定時間おきに、自動的に機器のファームウェアと本製品のバージョンアップの有無を確認します。また、バージョンアップが見つかると、ファイルを自動的にダウンロードします。

⚠注意
・ インターネットに接続していない場合は、確認しません。
・ ダウンロードしたファームウェアは、手動で更新してください。

1 本製品のメイン画面で、[ツール] － [オプション] － [バージョンアップ確認機能設定] を選択します。

2 必要に応じて [自動的にバージョンアップ確認を行う] にチェックマークを付け、ダウンロード先のフォルダーを指定したら、[OK] をクリックします。

メモ
・ [自動的にバージョンアップ確認を行う] にチェックマークを付けない場合は、「バージョンアップ確認」（P.51）を使って手動でバージョンアップを確認してくだい。
・ ダウンロードしたファイルは、不要になったら手動で削除してください。

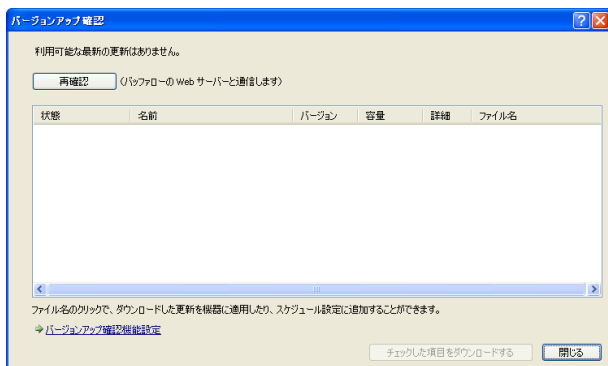
バージョンアップ確認

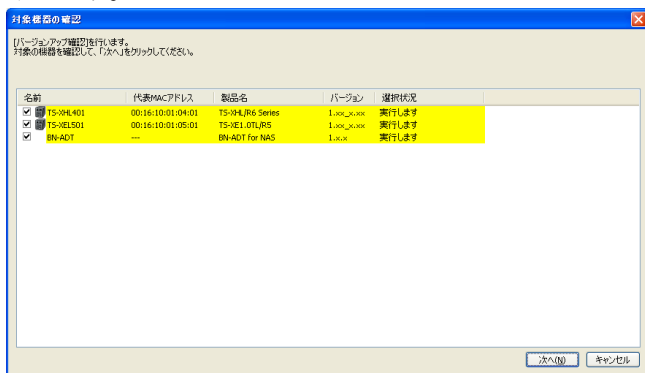
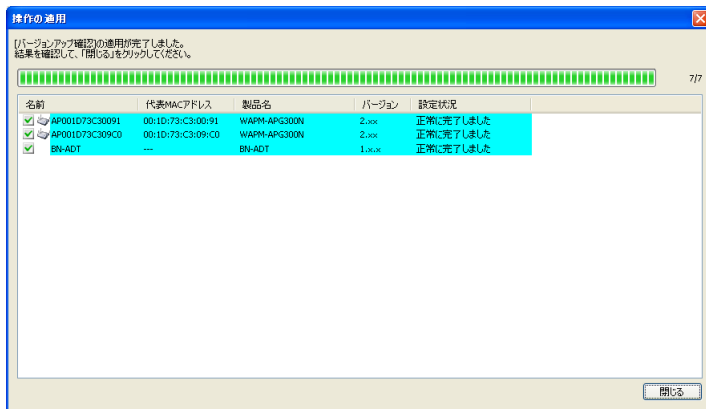
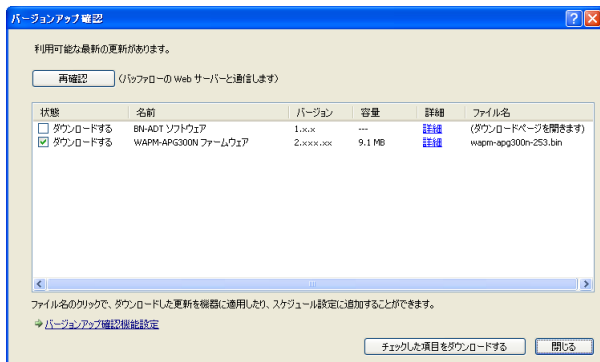
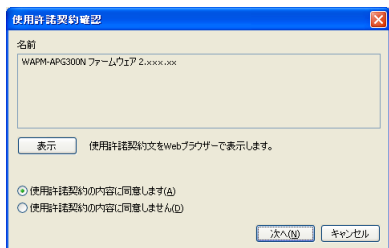
機器のファームウェアと本製品のバージョンアップの有無を確認します。また、バージョンアップが見つかると、ファイルをダウンロードします。

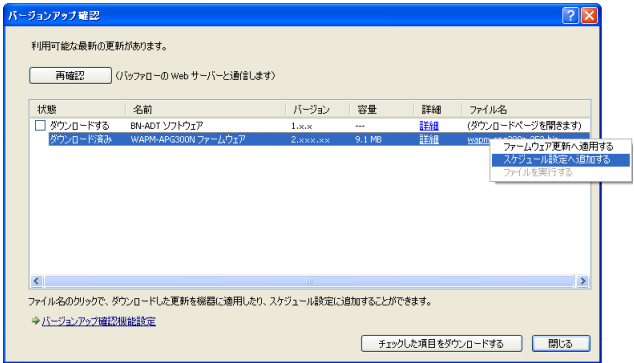
⚠注意
- インターネットに接続していない場合は、確認しません。
- ダウンロードしたファームウェアは、手動で更新してください。
- プロキシ設定方法は、ヘルプを参照してください。
- ユーザー認証が必要なプロキシサーバーと自動構成スクリプト（pac ファイル）による設定には非対応です。

1 本製品のメイン画面で、［ツール］－［バージョンアップ確認］を選択します。

2 ［再確認］をクリックします。

メモ 「バージョンアップ確認機能設定」（P.50）でバージョンアップを確認済みの場合は、手順5へ進んでください。

3 バージョンアップを確認したい機器にチェックマークを付け、［次へ］をクリックします。

4 管理機能

4 バージョンアップ確認が完了したら、[閉じる] をクリックします。

5 バージョンアップ可能な機器を表示するので、ダウンロードしたい機器にチェックマークを付け、[チェックした項目をダウンロードする］をクリックすると、ファイルをダウンロードします。

メモ ダウンロードするファイルによっては、使用許諾契約への同意を要求される場合があります。

4 ダウンロード済みの「ファイル名」をクリックし、処理を選択します。以降は画面の指示に従ってください。

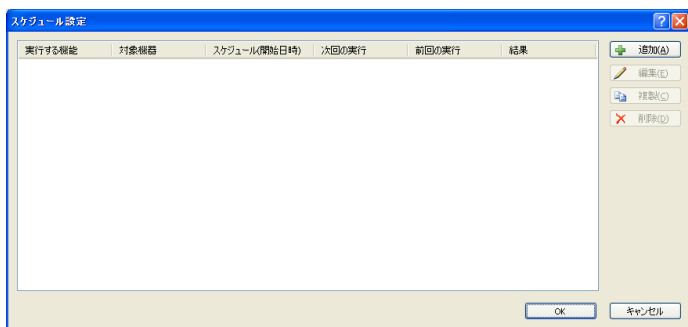
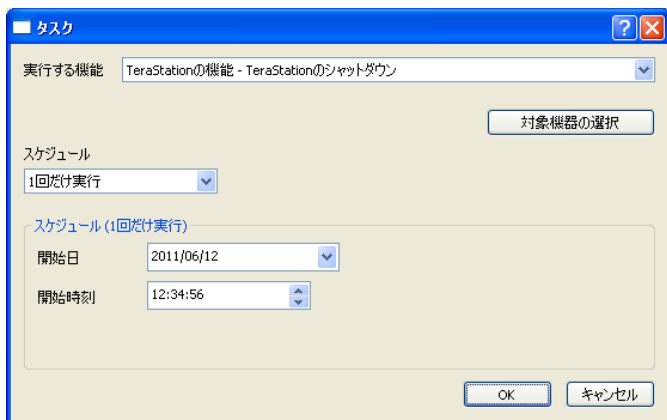
⚠注意 WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズ、TS-HTGL シリーズでは、「ファームウェア更新へ適用する」「スケジュール設定へ追加する」は選択できません。

パラメーター	説明
ファームウェア更新へ適用する	「ファームウェアの更新」（P.26）を使って更新します。
スケジュール設定へ追加する	「スケジュール設定」(P.54) を使って、指定した日時に更新します。
ファイルを実行する	ダウンロードしたファイルが実行形式の場合に選択します。

スケジュール設定

あらかじめ指定した日時に、指定したタスクを自動実行します。

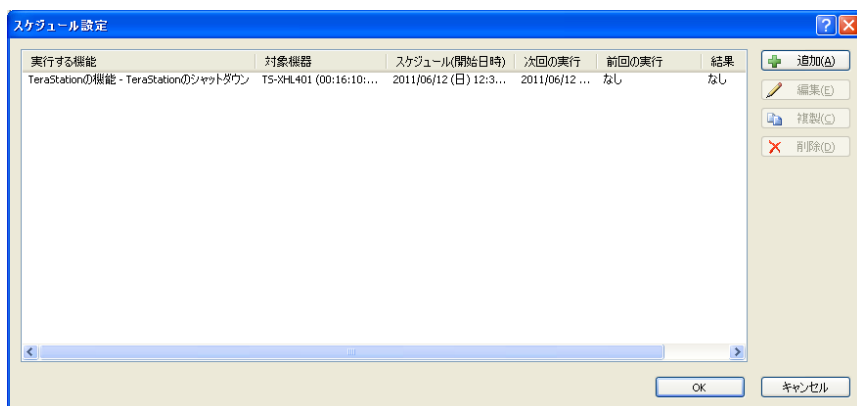
⚠注意
- Windows にログオンしていない場合は、実行しません。席を離れる場合は、Windows のロック機能 (Windows キー +L) をお使いください。
- Windows にログオンしていれば、本製品を起動していなくても、指定日時に自動的に実行します。

1 本製品のメイン画面で、[ツール] ー [スケジュール設定] を選択します。

2 [追加] をクリックします。

3 各項目を設定したら、[OK] をクリックします。

パラメーター	説明
実行する機能（※）	実行したい機能を選択します。 ・TeraStation の機能 - TeraStation のシャットダウン ・TeraStation の機能 - TeraStation の起動 ・TeraStation の機能 - TeraStation の再起動 ・TeraStation の機能 - ファームウェアの更新 ・TeraStation の機能 - 設定値の復元 ・TeraStation の機能 - 設定値の保存
対象機器の選択	タスクの実行対象の機器を選択します。
スケジュール	タスクを実行するスケジュールを選択します。 ・1 回だけ実行 ・日単位 ・週単位 ・月単位
開始日	タスクを開始する年月日を設定します。
開始時刻	タスクを開始する時刻を設定します。

※ TeraStation のシリーズにより、非対応の機能があります。（P.18）

メモ 選択した機能によっては、確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

メモ Windows のユーザー名とパスワード（Administrator 権限）の入力を要求される場合があります。

4
管理機能

設定 Web 画面を開く

本製品を使って、各機器の Web 設定画面を開くことができます。

⚠注意 WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズをお使いの方は、以下の「リモートデスクトップ接続を開く」の手順で設定してください。

1 マップ画面で、機器を右クリックし、[設定 Web 画面を開く] を選択します。

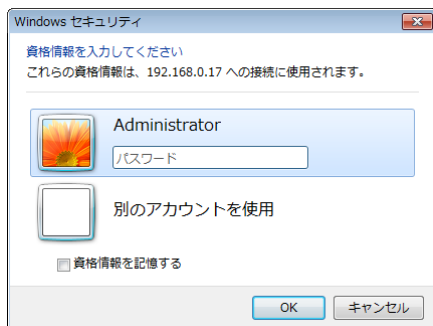
2 ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されたら、入力して [OK] をクリックすると、Web 設定画面が表示されます。

リモートデスクトップ接続を開く

本製品を使って、Windows Storage Server 搭載の WS-QL シリーズ、WS-VL シリーズのリモートデスクトップを開くことができます。

1 マップ画面で、機器を右クリックし、[リモートデスクトップ接続を開く] を選択します。

2 ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されたら、入力して [OK] をクリックすると、リモートデスクトップが表示されます。

5 機能詳細

ボタン説明

メニューから操作する以外に、画面に配置されているボタンをクリックしても同様の操作ができます。

標準バーのボタン

ボタンアイコン	内容
	新しい機器の検出
	ステータスの再取得
	IP アドレス範囲を指定して検出
	検出を自動実行しない
	新しい機器の検出を定期的に自動実行
	ステータスの再取得を定期的に自動実行
	IP アドレス設定
	VLAN 定義の追加・編集
	バージョンアップ確認

表示バーのボタン

ボタンアイコン	内容
	スクロール
	範囲選択
	ラベル
	ツールチップ
	画像
	アイコン
	AirStation にフォーカス
	BusinessSwitch にフォーカス
	TeraStation にフォーカス
	機器一覧
	ステータス
LOG	ログ

ログ画面のボタン

最新 ＜ 2010/07/05 (月) 1 ＞ 機器絞込み解除

ボタンアイコン	内容
最新	最新
＜ 2010/07/05 (月) 1 ＞	日付指定と分割ログの選択
	エラー
	警告
	情報
機器絞込み解除	機器絞込み解除

通知バルーン

本製品は、ログ機能と連動して、注意を促すために「通知バルーン」をマップ画面に表示します。

メモ 通知バルーンを即座に消したい場合は、アイコンを右クリックし、[通知を閉じる] をクリックします。

通知バルーンの一覧

表示内容	説明
新しい機器	新しい機器を検出しました。
接続変更	機器の接続先が変更されました。
通信不可	通信できませんでした。機器の状態や接続を確認してください。
ポート切断	ポートが切断されました。機器の状態や接続を確認してください。
IP アドレス重複	IP アドレスが重複しています。
IP アドレス重複？	この IP アドレスで異なる機器が応答しました。IP アドレスが重複しているか、変更されていないかご確認ください。
バージョンアップ可能	バージョンアップ確認の結果、新しいバージョンのファームウェアが見つかりました。

各種ファイル

本製品を使う上で把握すべきファイルは、次のとおりです。必要に応じて、CD-R などへ保存することをお勧めします。

ファイル種別	初期ファイル名	初期保存場所
本製品のデータベースファイル	BNADT.dbf（※1） Policy.dbf persistence.db maps フォルダーとその配下のファイル（※ 2）	マイドキュメント
ログ	log 年月日 .txt （※ 3）	C:¥Program Files¥BUFFALO¥BNADT¥log
TeraStation の機能－設定値の保存	TeraStation 名 _ 年月日 _ 時刻 .nas_config	マイドキュメント

※1 お使いの状況によっては、BNADTxxx.dbf(xxx は 001 から 999) というファイルも作成されます。

※2 インポートした画像データを保存します。

※3 ログが一定量を超えると、自動的に分割します。分割したファイル名は、分割した順に連番で「log 年月日 _xxx.txt」（xxx は 002 から 999）となります。

制限事項

本製品には、次の制限事項があります。

本製品と機器の設定項目の相違

本製品のメニューにある設定項目の中には、管理しようとする機器に実装されていない機能もあります。相違する設定項目がある場合、その項目の設定は無効です。

アンインストール方法

本製品をアンインストールするには、コントロールパネルから「BUFFALO Network Admin Tools for NAS」を削除してください。

メモ
- **アンインストールする前に、本製品の設定をバックアップすることをお勧めします。**
- **アンインストール時に、削除したいユーザーデータがあれば、お使いの環境に合わせてチェックマークを付けてください。**

TeraStation のエラー一覧

「エラー/インフォメーションの表示(設定)」(P.25)を設定している場合は、TeraStationのエラー発生時に以下のログが記録されます。

コード	値	LCD 表示	警告(ログ)
E00	0	SYSTEM Error E00 MPU No Response	“システムが応答していません。”
E01	1	DRAM LINES E01 DATA Failure	“E01：基板が故障しています。”
E02	2	DRAM LINES E02 ADDRESS Failure	“E02：基板が故障しています。”
E03	3	RTC Chip E03 No RTC Clock	“E03：基板が故障しています。”
E04	4	SYSTEM Error E04 Can't Load Krnl!	“E04：ファームウェアが破損しています。”
E05	5	WDT E05 System Stopped	“E05：システムがハングアップしました。”
E06	6	TFTP MODE E06 Lost boot image	“E06：ファームウェアが壊れています。”
E07	7	HD ALL E07 All HD Not Found	“E07：HDD が見つかりません。”
E10	10	UPS E10 Dependent Mode	“E10：停電により UPS にて駆動しています。”
E11	11	SYSTEM Error E11 Fan Failure	“E11：ファンの回転数に異常があります。”
E12	12	SYSTEM Error E12 Cooling Failure	“E12：システムの温度上昇が保障値を超えました。”
E13	13	RAID Error E13 ARRAYx Error	“E13：xx 番の RAID アレイでエラーが発生しました。”
E14	14	RAID Arrayx E14 Can't Mount	“E14：xx 番の RAID アレイをマウントできませんでした。”
E15	15	HDx Error E15 Many Bad Sectors	“E15：ディスク xx の不良セクター数が危険な範囲に達しました。”
E16	16	HDx Error E16 HDx Not Found	“E16：ディスク xx が見つかりません。”

コード	値	LCD 表示	警告（ログ）
E17	17	Chip Error E17 RTC Failure	“E17：基板が故障しています。”
E18	18	Chip Error E18 SATA1 Failure	“E18：基板が故障しています。”
E19	19	Chip Error E19 SATA2 Failure	“E19：基板が故障しています。”
E20	20	Chip Error E20 USB Failure	“E20：基板が故障しています。”
E21	21	Chip Error E21 Ethernet Failure	“E21：基板が故障しています。”
E22	22	HDx Error E22 HDx Can't Mount	“E22：ディスク xx のマウントに失敗しました。”
E23	23	HDx Error E23 HDx Is Faulty	“E23：エラーが発生しディスク xx が RAID アレイから外されました。”
E24	24	SATAx Error E24 COMM. Failure iSCSI Error E24 can't start servic	“E24：発生中。”
E25	25	iSCSI Error E25 can't share hdd	“E25：発生中。”
E26	26	Replication E26 Replication Failure	“E26：レプリケーションでエラーが発生しました。”
E27	27	FailOver E27 LostBackupTarget	“E27：バックアップ先の TeraStation が見つかりません。設定画面でフェイルオーバー機能のバックアップ先を再設定してください。”
E28	28	（未使用）	
E29	29	（未使用）	
E30	30	HDx Broken E30 Replace the DISK	“E30：エラーが発生し、x 番のハードディスクが RAID アレイから外されました。x 番のハードディスクを交換してください。”
ー	ー	ー	“Exx：未定義のエラーが発生しています。

TeraStation のインフォメーション一覧

「エラー / インフォメーションの表示（設定)」(P.25) を設定している場合は、以下の情報が表示されます。

コード	値	LCD 表示	警告（ログ）
I01	1	SYSTEM I01 SELF CHECKING	“I01：システム領域をチェック中です。”
I10	10	SYSTEM I10 TOO HOT!	“I10：システムの温度上昇が保障値を超える可能性があります。”
I11	11	HDx Warning I11 Bad Sectors	“I11：ディスク xx の不良セクターが危険な範囲に達する可能性があります。”
I12	12	OperationModeI12 DEGRADE MODE	“I12：RAID のデグレードモードで動作中です。”
I13	13	RAID I13 ARRAYxFormatting	“I13：xx 番の RAID アレイをフォーマット中です。”
I14	14	RAID I14 ARRAYx Checking	“I14：xx 番の RAID アレイをチェック中です。”
I15	15	RAID I15 ARRAYx Scanning	“I15：xx 番の RAID アレイのエラー状況を調査中です。”
I16	16	RAID I16 ARRAYx Creating	“I16：xx 番の RAID アレイを作成中です。”
I17	17	RAID I17 ARRAYx Resyncing	“I17：xx 番の RAID アレイをリシンク中です。”
I18	18	RAID I18A RRAYxRebuilding	“I18：xx 番の RAID アレイを再構成中です。”
I19	19	RAID I19 ARRAYx 0 Filling	“I19：xx 番の RAID アレイのデータを完全に消去しています。”
I20	20	DISK I20 DISKx Formatting	“I20：ディスク xx のフォーマット中です。”
I21	21	DISK I21 DISKx Checking	“I21：ディスク xx のディスクチェック中です。”
I22	22	DISK I22 DISKx 0 Filling	“I22：ディスク xx のデータ消去中です。”
I23	23	SYSTEM I23 Initializing	“I23：システム設定を初期化中です。”

コード	値	LCD 表示	警告（ログ）
I24	24	Network I24 Setting Config	“I24：IP アドレスの取得などネットワークを設定中です。”
I25	25	SYSTEM I25 F/W UPDATING	“I25：ファームウェアアップデート中です。”
I26	26	Web Setting I26 Initializing	“I26：Web 設定画面から設定を初期化中です。”
I27	27	USB Diskx I27 Checking	“I27：USB HDD をチェック中です。”
I28	28	USB Diskx I28 Formatting	“I28：USB HDD をフォーマット中です。”
I29	29	SYSTEM I29 Setting Quota	“I29：クォータを設定しています。”
I30	30	iSCSI I30 Connected	“I30：発生中。”
I31	31	Press FuncSW I31 New Diskx ready	“I31：xx 番のハードディスクを認識しました。ファンクションスイッチを押してください。”
I32	32	Set From Web I32 New Diskx ready	“I32：xx 番のハードディスクを認識しました。設定画面より RAID の再構築またはフォーマットしてください。”
I33	33	Replication I33 ReplicationFailure	“I33：発生中。”
I34	34	Virus alert I34 Virus detected	“I34：セキュリティーリスクの感染が検出されました。”
I35	35	Cartridgex I35 Location error	“I35：メディアカートリッジとして設定したハードディスクがディスク 1 のスロットに取り付けられています。メディアカートリッジに設定したスロットに接続してください。”
I36	36	Cartridgex I36 Decryption error	“I36：メディアカートリッジの暗号化を解除できません。本製品以外の TeraStation で暗号化したメディアカートリッジの可能性があります。”
I37	37	Recovery I37 SystemRecovering	“I37：システムのリカバリー中です。”
I38	38	Recovery I38 RecoveryFinished	“I38：システムのリカバリーが終了しました。”
I39	39	Recovery I39 Change Boot	“I39：リカバリー用 USB メモリーへのシステム転送が完了しました。背面の USB/HDD ブート切替スイッチを USB に変更してください。”

コード	値	LCD 表示	警告（ログ）
I40	40	Recovery I40 DataWillDeleted	“I40：リカバリーを行います。リカバリー設定した時の状態に戻すため、設定後にデータを変更、またはハードディスクを追加していた場合、そのデータは消去されます。”
I41	41	Recovery I41 PushFuncToStart	“I41：前面のファンクションボタンを押すとリカバリーを開始します。”
I42	42	Recovery I42 Preparing	“I42：リカバリーの準備をしています。”
I43	43	Recovery I43 Unsupported HW	“I43：リカバリー用USBメモリーで起動しましたが、この USB メモリーは本製品で作成されたものではありません。リカバリーすることはできません。”
I44	44	Recovery I44 Disk1 not found	“I44：リカバリー用USBメモリーで起動しましたが、リカバリーを行うディスク 1 が見つかりません。”
I45	45	Recovery I45 Recovery Failed	“I45：リカバリーに失敗しました。”
I46	46	RAID ARRAYx I46 RMM+ Processing	“I46：データの移行・変換作業（RAID のマイグレーション）中です。”
I47	47	SYSTEM I47 Don't Power Off	“I47：電源を切らないでください。データの移行・変換作業（RAID のマイグレーション）中です。”
I48	48	FailOver I48 PushFuncToStart	“I48：他の TeraStation からフェイルオーバー機能のバックアップ先として設定されました。本 TeraStation をバックアップ先として使用する場合、前面のファンクションボタンを押してください。”
I49	49	FailOver I49 LostMainTarget	“I49：フェイルオーバー機能でメイン機に設定した TeraStation が見つかりません。設定画面でフェイルオーバー機能を再度設定してください。”
I50	50	FailOver I50 Maintenance Mode	“I50：フェイルオーバー構成中（メンテナンスモード中）です。”
I51	51	FailOver I51 Initializing	“I51：フェイルオーバー構成の初期化中です。”
I52	52	New Firmware I52 Available	“I52：新しいファームウェアがリリースされています。ファームアップデートを実行してください。”
−	−		“Ixx：未定義のインフォメーションが発生しています。”